

貨物会社

国労に対して「遺憾」を表明したものではない(5月29日)

JR 貨物労組本部組織速報 (No.43 2013 年 5 月 21 日付) の「一部の組合が貨物労組は認めたかのように流布していることについては遺憾に思っている」とした会社回答を記載しているが、事実上は「人件費削減を受け入れたかのような内容が経営陣から流布した…」という指摘に対しての回答であって、「一部の労働組合がビラや情報で流している」ことについて「遺憾を表明したものではない」と会社は国労に対して説明した。

自らの主張を引用して事実をネジ曲げる

つまり「組織速報」(No.43 2013 年 5 月 21 日付)にある、「一部の労働組合が貨物労組は認めたかのように流布していることについては遺憾に思っている」とは、貨物労組が自らの主張を引用して会社側が表明したかのように記載しているものであって、会社が「労働組合のビラや情報に対して遺憾を表明したのではない」ことが明らかとなった。

広辞苑によると「遺憾」とは、「のこりおしいこと」「残念」「気の毒」とあり、貨物労組には「気の毒でした」ということであって、国労の取り組みに対して「残念だ」ということを表明したものではない。

組織速報の記載は不当労働行為に値しないの？

仮に「一部の労働組合が貨物労組は認めたかのように流布していることについては遺憾に思っている」との会社発言が事実だとすれば問題となる。複数の労働組合が存在する企業においては中立保持義務があり、交渉当事者の組合以外のことについて、意見・見解を明らかにすることは紛れもなく不当労働行為となる。労働組合であれば逆に厳しく指摘しなければならぬものであり、「会社は認めたぞ」と宣伝している場合ではない。知らなかったのかな？ひょっとして。

国労に対して「遺憾」を表明した事実はない

貨物会社が国労に対して「遺憾」と考えているのであれば、直接国労に対して表明するものとなる。しかし貨物会社は国労に対して「遺憾」の意を表明した事実は今日に至ってもない。

国労に対して「残念なデマ情報」「真っ赤な嘘」と、自分たちがこれまで反対してこなかったことの打消しにやっきになっているが、不当労働行為の力を借りてまで情報化するのは、とても労働組合のすることではない。

生活を守る為にみんなで声を上げよう！

誰かとこっそり秘密裏にことを進めようとした会社の意図は崩れてきた。「反対」と言えなかった組合も「反対」を明らかにせざるを得なくなってきた。みんなの力で反対し生活を守ろう！

2013年5月

国鉄労働組合

全国貨物協議会

夏季手当要求申し入れ:3, 0ヵ月分 要求獲得、生活改善を勝ち取ろう!

国労は、2012年度の夏季手当について「3, 0ヶ月 6月28日までの支払い」を全国統一要求として決定し、「55歳以上社員の支払い条件を改善すること」「社員組合間差別のない公平公正な扱いとすること」も含め、5月15日、貨物会社申し入れました。

賃金削減反対! 経営陣は社員の生活改善に目を向けろ

今年度の事業計画で明らかにした期末手当の削減だけに止まらず、賃金カットまで言い出しています。今春闘でも14年連続のベア・ゼロとなり、JR採用者のほとんどはベースアップがないままに生活を強いられてきました。その上で「賃金削減」を行うとは許せません。噂されている「毎月1割カット」が1年間を通した場合を想像してみてください。12ヶ月の生活を10ヶ月ちよつとの賃金で生活することになり、それは1ヶ月半の「タダ働き」だということです。

増え続ける毎月の赤字 生活改善は「待った」なし

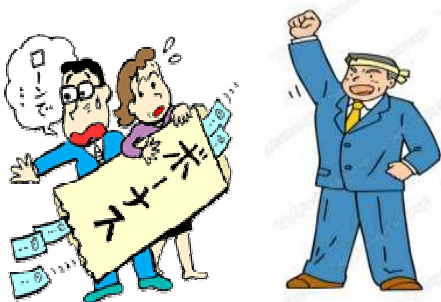
国労が実施している『賃金・生活実態アンケート』
(2012年春闘版)では、他労組の組合員も含め「毎月の赤字」は、昨年よりも3, 691円増加し、33, 849円となっています。「赤字の補填は期末手当で」との回答は85, 1%で、毎月の苦しい生活を期末手当で補っている実態が浮き彫りになっています。

貨物会社には支払う体力も能力もある!

貨物会社は「収入が計画に達していない」「国からの支援を受けている」などを理由に賃金や期末手当を押さえ込んでいます。しかし、24年度の決算でも4億円の経常黒字を確保するなど3期連続の黒字となりました。これは、昼夜を問わず安全輸送の確保に努めてきた社員とそれを支える家族の頑張りがあったからです。

生活改善に向け、みんなで声を出そう!

厳しさが増している生活実態を夏季手当で改善することは、立場や組合所属を超えた社員共通の切実な願いです。社員の努力により得た「蓄え」を社員の生活改善のために還元することは当然のことです。しかし、黙っていても、生活は改善しません。大事なことは、一人ひとりが「期末手当で生活改善を」の声を上げることです。国労は貨物会社に働く社員一人ひとりの声を経営陣に届け、生活改善実現に向け頑張ります。



2013年5月 国鉄労働組合 全国貨物協議会